Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 21第17号
2021年（令和三年） 7月30日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

7/15～7/21のNYMEX・WTI先物市場は、66.42～71.81ドルの範囲で推移した。

7月22日は、コロナ変異種の感染再拡大への懸念は後退し、石油需要の増加見通しを背景に、株高同様、投資家のリスク選好姿勢により続伸した。また、OPECプラスの再合意における段階的減産緩和合意も好感された。9月限の終値は前日比1.61ドル高の71.91ドル。

週末23日は、前日の流れを受けて、需給の引き締まり感から、続伸した。ただ、原油先物価格の回復に伴う利益確定売りも出やすく、また、為替市場でドル高が進行、割高感から、上値は重かった。なお、米国内の稼働中の石油掘削装置は前週末比7基増の387基。8月限の終値は前日比0.16ドル高の72.07ドル。

週明け26日は、新型コロナ変異種の感染再拡大に伴う石油需要拡大の減速懸念、中国政府の国内独立系製油所への原油輸入割り当ての削減報道を受けて、5営業日ぶりに小幅に反落した。9月限の終値は前日比0.16ドル安の71.91ドル。

27日は、前日に続き、米国内を含めて、感染再拡大に伴う需要減少懸念から、続落した。ただ、対ユーロのドル安で原油先物の割安感による買いもあり、底値は堅かった。9月限の終値は前日比0.26ドル安の71.65ドル。

28日は、同日発表の米国エネルギー情報局（EIA）の米国石油在庫統計で、原油在庫・製品在庫ともに市場予想を上回る取り崩しが報告され、堅調な石油需要を示すものとして、3営業日ぶりに反発した。9月限の終値は前日比0.74ドル高の72.39ドル。

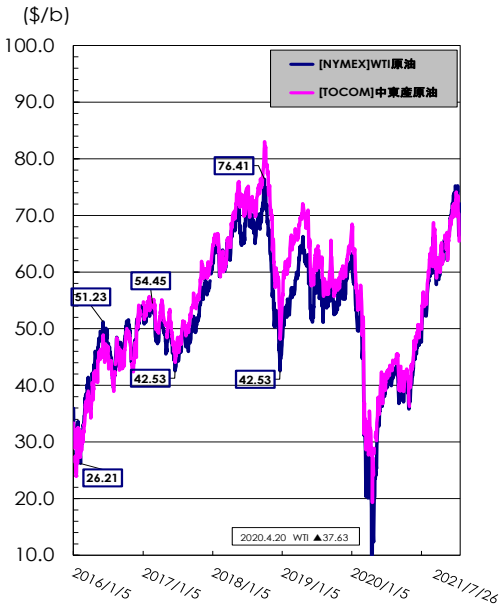
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（9月渡し）は、7月15日～21日の間67.60～72.40ドルの範囲で推移した。7月26日71.90ドル、27日73.40ドル、28日73.40ドルと推移した。

為替は7月15日～21日の間109.57～110.98円の範囲で推移した。7月26日110.54円、27日110.24円、28日109.86円で推移した。

財務省が7月29日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、7月上旬の原油輸入平均CIF価格は、47,227円/klで、前旬比1,079円安、ドル建て67.92ドルで前旬比2.05ドル安、為替レートは1ドル/110.53円。

そのような中で、7月26日時点の小売価格は、ガソリンが前週（7月19日）比0.1円の値上がり、軽油も同0.1円の値上がり、灯油は同2円の値上がり（18㍑ベース）だった。ガソリンは8週連続の値上がり、軽油も8週連続の値上がり、灯油は34週連続の値上がりだった。この週（7月第4週）の原油コストは値下がり、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、前週比0.5～1.0円の引き下げとなった模様。

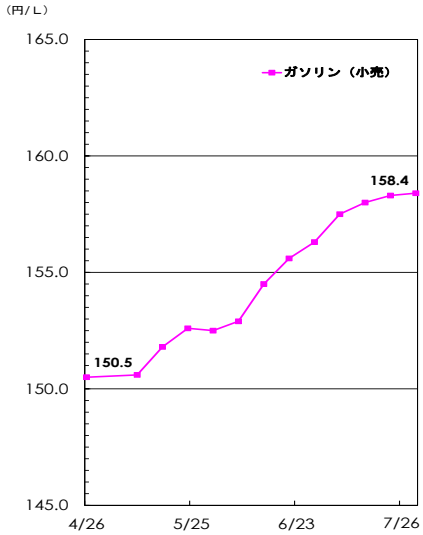
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	7/18 ～ 7/24	2,594	▲ 109	▲ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	67.4	▲ 2.8	▲ －
	原油在庫量	（千kl）	7/24	11,202	▼ -539	▼ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	7/26	69.68	▼ -0.58	▲ 27.0
	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	7/26	71.91	▲ 5.49	▲ 30.3
	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	7月上旬	67.92	▼ -2.05	▲ 35.14
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	47,227	▼ -1,079	▲ 25,117
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	110.53	▼ -0.77	▼ -3.31
	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	7/26	111.54	▼ -0.66	▼ -4.72



（単位：千kl、円/㌔）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		7/18 ～ 7/24	894	▲ 143	▲ －
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	977	▲ 405	▲ －
	輸出		〃	25	▲ 25	▼ －
	在庫		7/24	2,100	▼ -108	▲ －
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	7/20 ～ 7/26	67.1	▼ -1.1	▲ 25.7
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/20 ～ 7/26	64.5	▼ -1.3	▲ 23.7
		(TOCOM/中部)	7/26	65.2	▼ -1.8	▲ 23.5
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	7/26	158.4	▲ 0.1	▲ 26.1

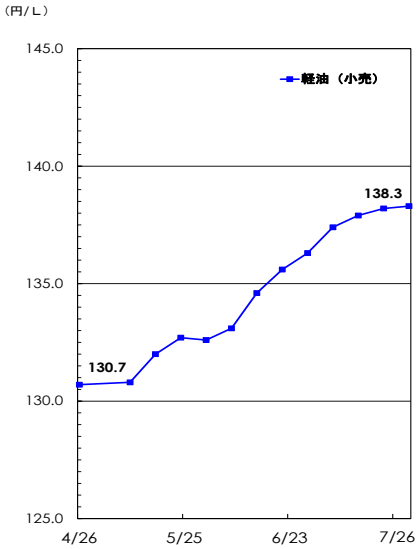
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㌔）

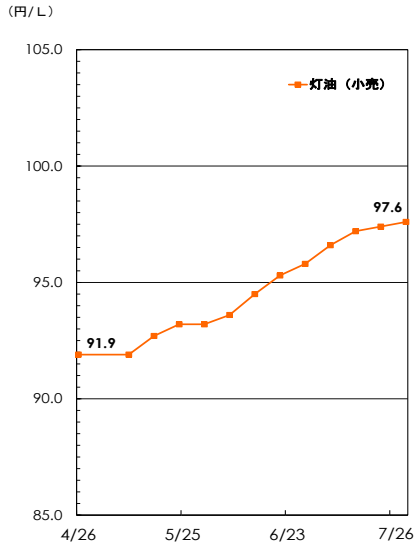
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		7/18 ～ 7/24	637	▼ -27	▲ －
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	493	▼ -20	▲ －
	輸出		〃	149	▼ -5	▲ －
	在庫		7/24	1,782	▼ -5	▲ －
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	7/20 ～ 7/26	68.5	▼ -1.0	▲ 25.3
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/20 ～ 7/26	66.3	▼ -2.7	▲ 19.0
		(TOCOM/中部)	7/26	－	－	－
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	7/26	138.3	▲ 0.1	▲ 25.4

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㌔）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		7/18 ～ 7/24	182	▲ 100	▲ －
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	38	▲ 24	▼ －
	輸出		〃	0	▼ -53	➡ －
	在庫		7/24	1,907	▲ 144	▲ －
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	7/20 ～ 7/26	68.0	▼ -1.0	▲ 24.9
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/20 ～ 7/26	59.8	▼ -2.9	▲ 17.2
		(TOCOM/中部)	7/26	65.0	▼ -0.5	▲ 21.0
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	7/26	97.6	▲ 0.2	▲ 18.8



■ 関連情報

1　海外/原油

7月28日のNYMEXのWTI先物原油は、堅調な石油需要の観測に支えられ、3営業日ぶりに反発した。同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の米国石油在庫統計で、原油在庫は前週末比410万バレル減の4億3560万バレルと市場予想(290万バレル減)を上回ったばかりでなく、コロナ禍前の2020年1月31日以来の低水準となった。また、ガソリン・中間留分等の製品在庫も市場予想を上回る減少だった。加えて、先物原油の受け渡し点であるクッシングの原油在庫も7週連続の減少で2020年1月17日以来の低水準であった。ただ、新型コロナの変異種による感染再拡大の懸念も根強く、上値は重かった。9月限の終値は前日比0.74ドル高の72.39ドル、10月限の終値は0.65ドル高の71.79ドル。

EIAによると、7月26日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.7セント値下がりの1ガロン3.136ドル(92.3円/㍑)、ディーゼルは同0.2セント値下がりの3.342ドル(98.4円/㍑)となった。ガソリンは5週ぶりの値下がり、ディーゼルは14週ぶりの値下がりとなった。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2021年7月18日～7月24日に休止したトッパー能力は48.3万バレル/日で、前週に対して17.5万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は259.4万klと、前週に比べ10.9万kl増加。前年に対しては23.6万klの増加。トッパー稼働率は67.4%と前週に対して2.8ポイントの増加、前年に対しては7.2ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/19.1%増、ジェット/37.4%減、灯油/121.6%増、軽油/4.1%減、A重油/4.1%減、C重油/8.7%減。今週のC重油の輸入は0.5万kl(前週比0.5万kl増)。軽油の輸出は14.9万kl(前週比0.5万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比で軽油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比ではガソリン、軽油、C重油が増加し、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は97.7万kl(対前週71.0%増)と3週振りで増加した。ジェット5.7万kl(対前週2.3%増)、灯油3.8万kl(対前週167.7%増)、軽油49.3万kl(対前週4.0%減)、A重油11.8万kl(対前週15.8%増)、C重油20.6万kl(対前週25.0%減)。

(単位：千KL)

	今週 (7/18 ~ 7/24)	前週 (7/11 ~ 7/17)	前週比	
ガソリン	977	572	▲ 405	(71%)
ジェット燃料	57	55	▲ 2	(4%)
灯油	38	14	▲ 24	(171%)
軽油	493	513	▼ -20	(-4%)
A重油	118	102	▲ 16	(16%)
C重油	206	274	▼ -68	(-25%)
合　計	1,889	1,530	▲ 359	(23%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

7月24日時点の在庫は、ガソリン、軽油、C重油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはC重油が減少し、その他の油種で増加となった。

ガソリンは210.0万kl、前週差10.8万kl減。前年に対しては39.6万kl多い。

灯油は190.7万kl、前週差14.4万kl増。前年に対しては0.6万kl多い。

軽油は178.2万kl、前週差0.5万kl減。前年に対しては13.9万kl多い。

A重油は75.9万kl、前週差2.2万kl増。前年に対しては3.9万kl多い。

C重油は182.2万kl、前週差1.4万kl減。前年に対しては12.2万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (7/24)	前週 (7/17)	前週比	
ガソリン	2,100	2,208	▼ -108	(-5%)
ジェット燃料	849	828	▲ 21	(3%)
灯油	1,907	1,763	▲ 144	(8%)
軽油	1,782	1,787	▼ -5	(-0%)
A重油	759	737	▲ 22	(3%)
C重油	1,822	1,836	▼ -14	(-1%)
合　計	9,219	9,159	▲ 60	(0.7%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

7月20日～26日の指標原油価格は前週（7月13日～19日）比で値下がりし、為替レートも円高で、円建ての原油コストは値下がりしたと見られる。

これを受けて、次週（7/29～8/4）の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、前週比0.5～1.0円の値下げとなった模様。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

7月20日～26日の製品スポット市況は、7月13日～19日平均と比べ、全ての油種・取引で値下がりした。

直近（7/20～7/26）の陸上スポット価格平均値（千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格）は、前週比で、ガソリンは1.1円の値下がり、灯油は1.0円の値下がり、軽油は1.0円の値下がりだった。直近週（7/20～7/26）において、ガソリンは120～121円台で値下がり、灯油は67～68円台で値下がり、軽油は69円台で値下がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週（7/20～7/26）に、前週比で、ガソリンは0.7円の値下がり、灯油は0.7円の値下がり、軽油は0.8円の値下がりだった。海上スポット価格は、同期間（7/20～7/26）に、ガソリンは122～123円台で値下がり、灯油は64～65円台で値上がり、軽油は70円台で値下がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは1.3円の値下がり、灯油は2.9円の値下がり、軽油は2.7円の値下がりだった。先物価格は、同期間（7/20～7/26）に、ガソリン116～121円台で大きく値上がり、灯油58～62円台で大きく値上がり、軽油63～68円台で大きく値下がり後それ以上に値上がりして推移した。

（RIM）　（単位：円/㌔㍑）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週　(7/20 ~ 7/26)	前週　(7/13 ~ 7/19)	前週比
スポット価格	レギュラー	67.1	68.2	▼ -1.1
	灯油	68.0	69.0	▼ -1.0
	軽油	68.5	69.5	▼ -1.0

（TOCOM）　（単位：円/㌔㍑）

[期近物/終値〔平均〕]		今週　(7/20 ~ 7/26)	前週　(7/13 ~ 7/19)	前週比
先物価格	レギュラー	64.5	65.8	▼ -1.3
	灯油	59.8	62.7	▼ -2.9
	軽油	66.3	69.0	▼ -2.7

※上記価格は税抜き価格

参考値　（7/20～7/26実績値）　（単位：円/㌔㍑）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -1.1	▼ -1.3	▼ -1.2
灯油	▼ -1.0	▼ -2.9	▼ -2.0
軽油	▼ -1.0	▼ -2.7	▼ -1.9
A重油	▼ -0.5		

（出所）現物：　RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：　TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

7月26日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週（7月19日）比0.1円高の158.4円、軽油も同0.1円高の138.3円、灯油は18㌔㍑ベースで同2円高の1,756円（1㌔㍑ベースでは同0.2円高の97.6円）。ガソリンは8週連続の値上がり、軽油も8週連続の値上がり、灯油は34週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは19都道県、横ばいは10県、値下がりは18府県だった。全国最安値は152.5円の徳島県（同横ばい）その次に安かったのは、152.7円の岡山県（同1.0円高）、他方、最高値は168.2円の長崎県（同0.4円高）だった。最も値上がりしたのは同1.7円高の東京都（161.5円）で、横ばいは鹿児島県など10県、最も値下がりしたのは同0.5円安の埼玉県（152.8円）・宮城県（153.6円）・大阪府（159.4円）の3県だった。

今週（7月20日～26日）は、指標原油価格は値下がりし、為替レートもわずかに円高で、円建ての原油コストは値下がりしたと見られる。次週（7月29日～8月4日）適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、前週比0.5～1.0円の値下げとなった模様。次回調査時（8月2日）のガソリンの小売価格は小幅な値下がりが予想される。

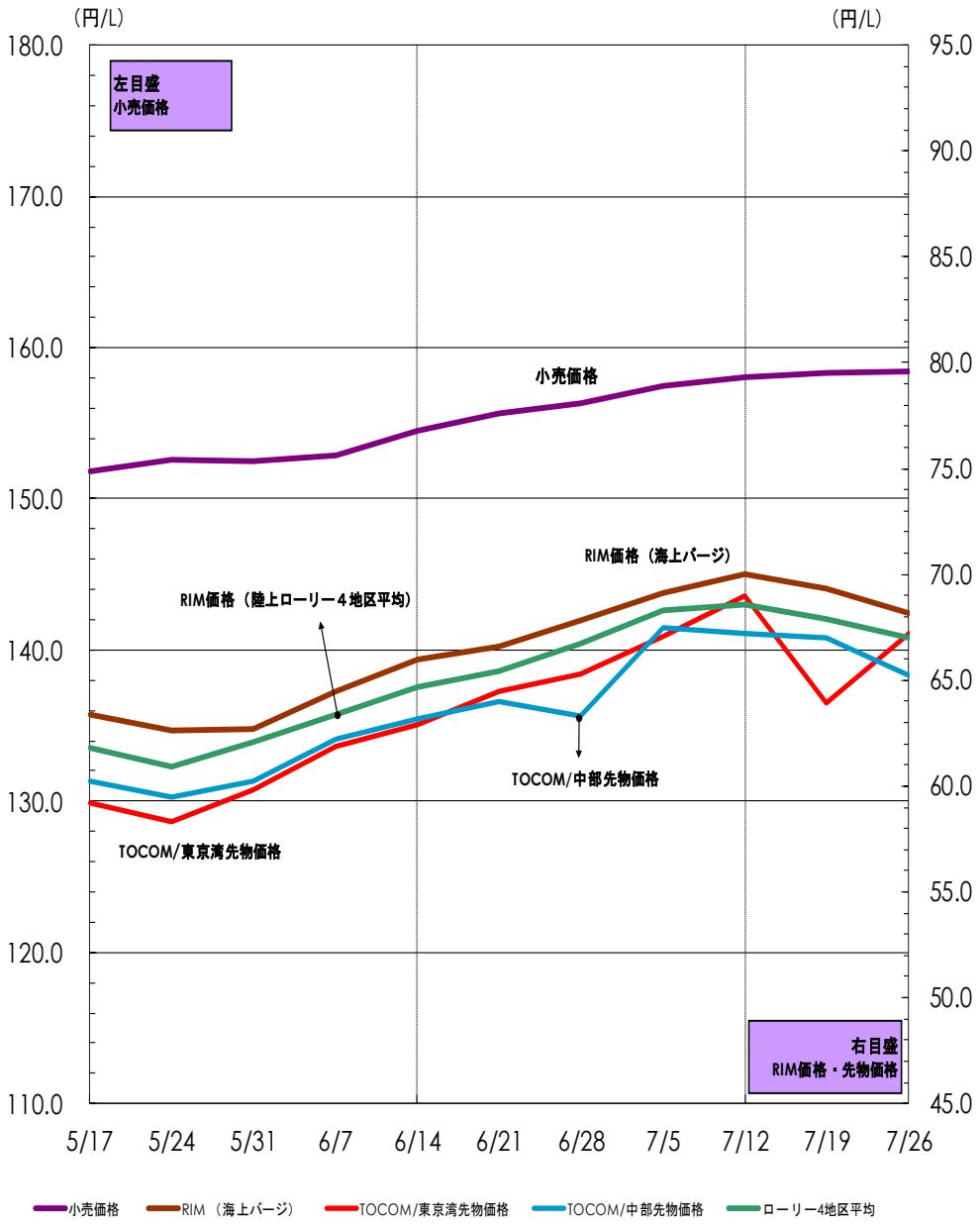
（単位：円/㌔㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(7/26)	前週　(7/19)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	158.4	158.3	▲ 0.1	08/8/4	185.1
	灯油	97.6	97.4	▲ 0.2	08/8/11	132.1
	軽油	138.3	138.2	▲ 0.1	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2021/5/17　～　2021/7/26)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2021第18号）の公表は、8/6（金）14:00 です。

「セルフSS出店状況」（令和2年3月末現在）は、8月26日（水）14：00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。